

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

日本特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

JC978 U.S. PTO  
09/886261  
06/22/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2001年 4月26日

出願番号

Application Number:

特願2001-129108

出願人

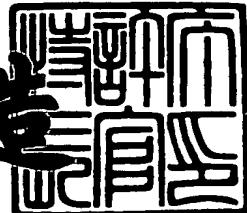
Applicant(s):

熊木 千春

2001年 5月25日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3044550

【書類名】 特許願  
【整理番号】 P130426K1  
【提出日】 平成13年 4月26日  
【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿  
【発明の名称】 プリペイド式クレジットカードによる商決済システム  
【請求項の数】 8  
【発明者】  
【住所又は居所】 新潟県西蒲原郡分水町大字国上4032番地  
【氏名】 熊木 千春  
【特許出願人】  
【識別番号】 500237162  
【住所又は居所】 新潟県西蒲原郡分水町大字国上4032番地  
【氏名又は名称】 熊木 千春  
【代理人】  
【識別番号】 100091373  
【住所又は居所】 新潟県長岡市城内町3丁目5番地8 吉井国際特許事務所  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 吉井 剛  
【選任した代理人】  
【識別番号】 100097065  
【住所又は居所】 新潟県長岡市城内町3丁目5番地8 吉井国際特許事務所  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 吉井 雅栄  
【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 061229  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1  
【物件名】 要約書 1  
【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 プリペイド式クレジットカードによる商決済システム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 預金通帳を提供すると共に、この預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行し、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすることでクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済して、この預金通帳に商取引の決済記録を表示する金融機関と、このプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことによりこのプリペイド式のクレジットカード所有者の前記預金通帳から引き落とし決済する商品・サービス提供業者とから成ることを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項2】 金融機関が提供する預金通帳を保証にしてカードを発行し、このカードは前記預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚の商取引可能なプリペイド式のクレジットカードに構成し、このプリペイド式のクレジットカードで商品・サービス提供業者と商取引を行うことでクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済され、前記金融機関にてこの預金通帳に商取引の決済記録が表示されるように構成したことを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項3】 金融機関は、預金通帳を提供すると共に、この預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行し、このプリペイド式のクレジットカードで商取引が行われることにより金融機関はクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済し、この預金通帳に商取引の決済記録を表示するようにしたことを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項4】 商品・サービス提供業者は、金融機関が提供する預金通帳の預金額以内に最大利用限度額が設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内

に設定されて発行された一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードで商取引が行われると、前記金融機関で提供された預金通帳から引き落とし決済し、この預金通帳には金融機関にて商取引の決済記録が表示されるように構成したことを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項5】 預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金通帳の預金額以内に設定して発行された一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことで、クレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済してこの預金通帳に商取引の決済記録を表示する情報処理装置と、このプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことによりこのプリペイド式のクレジットカード所有者の前記預金通帳から引き落とし決済する情報処理装置とから成ることを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項6】 前記プリペイド式のクレジットカードは、少なくとも50万円以下の範囲内で最大利用限度額を選択できるように構成するか、若しくは少なくとも50万円以下の範囲内で数種類の最大利用限度額が設定されていてこの数種類の最大利用限度額の中から選択できるように構成したことを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載のプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項7】 前記プリペイド式のクレジットカードは、金融機関に預金することで前記預金通帳とセットで発行されるか、若しくは預金通帳を金融機関に提示することを条件にプリペイド式のクレジットカードを発行する構成としたことを特徴とする請求項1～6のいずれか1項に記載のプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【請求項8】 前記預金通帳に入金することで自動的に前記プリペイド式のクレジットカードの最大利用限度額が上昇するか、または入金することにより残金の増えた預金通帳を提示することで最大利用限度額が上昇した別のプリペイド式のクレジットカードが発行されるか、増えた預金残金分の別のプリペイド式のクレジットカードが発行される構成としたことを特徴とする請求項1～7のいずれか1項に記載のプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、プリペイド式クレジットカードによる商決済システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

現在、商取引用のカードとして様々なものが使用されており、主としてクレジットカード・デビットカード・プリペイドカード・外国（英国）銀行の当座決済機能付カードなどが挙げられる。

【0003】

中でも、現在最も主流となっているのはクレジットカードであり、国内外の様々な店頭での商取引は基より、インターネットショッピングや通信販売にも使用できる非常に便利なカードである。

【0004】

しかしながら、このクレジットカードには、

- ①カードを発行するに当たって入会審査が必要であり、誰でもが発行を許されるものではないために、所有したくても所有できない人が大勢いる。
- ②利用金額分の引き落とし決済が後払い、実質的にはお金がなくても商取引が可能なため、使いすぎてカード破産を起こし易い。
- ③このクレジットカードを店頭で使用した際にコピーカードを作られてしまったり、インターネットで使用した際にカード番号が盗まれてしまったりしてカード犯罪の被害にあうケースも増加傾向にあり、更に、カードを落としたり盗難にあったりした際に、気付かずに届けを出さないでおくと、思いがけず大きな被害を受けることもある。

というような短所もあった。

【0005】

また、デビットカードは、金融機関の通帳のキャッシュカードであるため、クレジットカードと比較して誰でもすぐに発行することができるし、銀行への預金

残高分しか利用できないので、使いすぎて後で決済できないということがないという長所があるが、店頭での利用に用途が限定され、インターネットや通信販売などには利用できないという短所や、利用限度額が通帳への入金や引き落としによって変動するため、預金額が非常に多い場合には、その預金額分だけ抑制なく自由に商取引を行えるために、使いすぎてしまう危険性があるなどの短所があった。

## 【0006】

また、テレホンカードやハイウェイカードなどのプリペイドカードも、利用したい分だけだれでもが購入できるという長所があるが、サービスが特定のものに限られているという短所がある。

## 【0007】

また、外国銀行の当座決済機能付カードは、クレジットカードと同じように様々な商取引に利用できるし、即時決済ではないもののデビットカードと同じように預金残高分しか利用できないので使いすぎて後で決済できないということもないという長所がある。しかし、

- ①発行してもらう手續が非常に面倒である。
- ②口座に入金するのにも外国に送金することになるので国内送金に比べて手数料が高額であり、また入金までに要する時間も国内の銀行に入金するのとは異なり1日以上かかってしまう。
- ③通帳が無く、かなり後になって取引明細が送られてくるので、取引内容をいつでもすぐに把握したい人にとっては不便である。

という短所がある。

## 【0008】

本出願人は、このような様々な商取引用カードの現状に鑑み、誰にでも簡単に所有することができ、且つクレジットカードのように広く商取引に利用できる商取引カードがあれば、消費者にとって非常に便利なカードとなり且つカードによる商取引の利用者層も拡大するのではないかと着眼し、更に利用限度額をカード所有者の預金額以内に設定すれば、カード犯罪の被害も少額にとどまりカード利用のリスクが小さくなるのではないかと着眼して、本発明の画期的なプリペイド

式クレジットカードによる商決済システムを発案した。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明の要旨を説明する。

【0010】

預金通帳を提供すると共に、この預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行し、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすることでクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済して、この預金通帳に商取引の決済記録を表示する金融機関と、このプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことによりこのプリペイド式のクレジットカード所有者の前記預金通帳から引き落とし決済する商品・サービス提供業者とから成ることを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0011】

また、金融機関が提供する預金通帳を保証にしてカードを発行し、このカードは前記預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚の商取引可能なプリペイド式のクレジットカードに構成し、このプリペイド式のクレジットカードで商品・サービス提供業者と商取引を行うことでクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済され、前記金融機関にてこの預金通帳に商取引の決済記録が表示されるように構成したことを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0012】

また、金融機関は、預金通帳を提供すると共に、この預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行し、このプリペイド式のクレジットカードで商取引が行われることにより金融機関はクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済し、この預金通帳に商取引の決済記録

を表示するようにしたことを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0013】

また、商品・サービス提供業者は、金融機関が提供する預金通帳の預金額以内に最大利用限度額が設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定されて発行された一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードで商取引が行われると、前記金融機関で提供された預金通帳から引き落とし決済し、この預金通帳には金融機関にて商取引の決済記録が表示されるように構成したことを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0014】

また、預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金通帳の預金額以内に設定して発行された一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことで、クレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済してこの預金通帳に商取引の決済記録を表示する情報処理装置と、このプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことによりこのプリペイド式のクレジットカード所有者の前記預金通帳から引き落とし決済する情報処理装置とから成ることを特徴とするプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0015】

また、前記プリペイド式のクレジットカードは、少なくとも50万円以下の範囲内で最大利用限度額を選択できるように構成するか、若しくは少なくとも50万円以下の範囲内で数種類の最大利用限度額が設定されていてこの数種類の最大利用限度額の中から選択できるように構成したことを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載のプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0016】

また、前記プリペイド式のクレジットカードは、金融機関に預金することで前記預金通帳とセットで発行されるか、若しくは預金通帳を金融機関に提示するこ

とを条件にプリペイド式のクレジットカードを発行する構成としたことを特徴とする請求項1～6のいずれか1項に記載のプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0017】

また、前記預金通帳に入金することで自動的に前記プリペイド式のクレジットカードの最大利用限度額が上昇するか、または入金することにより残金の増えた預金通帳を提示することで最大利用限度額が上昇した別のプリペイド式のクレジットカードが発行されるか、増えた預金残金分の別のプリペイド式のクレジットカードが発行される構成としたことを特徴とする請求項1～7のいずれか1項に記載のプリペイド式クレジットカードによる商決済システムに係るものである。

【0018】

【発明の実施の形態】

好適と考える本発明の実施の形態（発明をどのように実施するか）を、その作用効果を示して簡単に説明する。

【0019】

金融機関が提供する預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計が預金額以内に設定された一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行する。

【0020】

このプリペイド式クレジットカードで商品・サービス提供業者と商取引を行うと、クレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済され、この預金通帳には商取引の決済記録が表示されることになる。

【0021】

具体的には、このプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことで商品・サービス提供業者の情報処理装置がプリペイド式のクレジットカード所有者の預金通帳から引き落とし決済を行い、この処理に応じて金融機関の情報処理装置がクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済して、この預金通帳に商取引の決済記録を表示する。

【0022】

このプリペイド式のクレジットカードは、上記のように最大利用限度額を預金通帳の預金額以内に設定したものであるため、支払い金は預金通帳の預金によって保証されることになり、よって既存のクレジットカード発行の際に行われるような入会審査などは不要となって、預金がなされた預金通帳を持つ人であれば、誰にでもその預金額の範囲内で最大利用限度額を設定したプリペイド式のクレジットカードを発行できることになる。

【0023】

従って、これまでクレジットカードを所有できなかった人も、このプリペイド式のクレジットカードであれば容易に所有できることになり、このプリペイド式のクレジットカードを、これまでのクレジットカードと同様の様々な商取引に広く利用できる。

【0024】

よって、クレジットカードを所有できなくて、インターネットショッピングなどのどうしてもクレジットカードが必要な商取引を利用できなかった人も、このプリペイド式のクレジットカードを利用しての商取引が可能となるので、一層カードによる商取引の利用者層が拡大することになる。

【0025】

また、このプリペイド式のクレジットカードも、もちろん既存のクレジットカードと同様に盗難やコピーカードを作られる危険性やカード番号を盗まれる危険性はあるが、最大利用限度額が預金通帳の預金額以内に限られているので利用され続けて大きな被害をこうむることにはならず、このプリペイド式クレジットカード利用のリスクは既存のクレジットカードに比べて低い。

【0026】

更に、例えば、最大利用限度額を10万円に設定した場合、一枚の最大利用限度額を1万円に設定したプリペイド式クレジットカードを十枚発行することもでき、この十枚のうちの一、二枚だけを携帯しておくようにすれば、このプリペイド式クレジットカードを落としても被害額が非常に小さくて済み、一層リスクを小さくすることができる。

【0027】

また、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすると、最大利用限度額が預金額以内に設定されているから、絶対に使いすぎて決済できなくなってしまうことがないし、クレジットカードと同様に預金通帳から利用分の金額が自動引き落としされて即時決済され、この預金通帳には商取引の決済記録が表示されることになるため、利用状況を見たいときにすぐ確認できることになる。

## 【0028】

また、最大利用限度額を設定していることによってデビットカードのように最大利用限度額が変動してしまうことがなく、この設定金額を少額にとどめておくことで、使いすぎを未然に且つ確実に防止することができる。

## 【0029】

近年、家計を任せられた妻がお金を使い込んでしまい、夫の知らないうちに借金を抱えてしまうという問題が数多く起こっているが、本発明のシステムを利用して、例えば、夫が保有する預金通帳によって最大利用限度額を10万円に設定したプリペイド式のクレジットカードを発行し、この10万円分のプリペイド式クレジットカードを妻に一ヶ月分の生活費として預けておけば、妻が無駄遣いしたりしてお金を使いすぎることを絶対に防止できることになるし、そのプリペイド式のクレジットカードの商取引の決済記録が預金通帳に表示されるので、この決済記録を見て夫が家計を管理することも可能となる。

## 【0030】

従って、このような現代社会情勢にも適合した極めて実用性に秀れた画期的なプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

## 【0031】

また、例えば、前記プリペイド式のクレジットカードは、少なくとも50万円以下の範囲内で最大利用限度額を選択できるように構成するか、若しくは少なくとも50万円以下の範囲内で数種類の最大利用限度額が設定されていてこの数種類の最大利用限度額の中から選択できるように構成すれば、50万円以下の範囲内で個人個人に最適な利用限度額を選択して設定することができるし、最大利用限度額が最高でも50万円であるので、プリペイド式のクレジットカードが盗難にあったり、コピーカードを作られたり、カード番号を盗まれても、被害額は5

0万円以下に抑えられることとなり、一層このプリペイド式クレジットカード利用のリスクが小さくなる。

#### 【0032】

##### 【実施例】

本実施例は、金融機関が提供する預金通帳の預金額以内に設定若しくは最大利用限度額の合計が預金額以内に設定された一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行し、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすることによりクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済され、この預金通帳には商取引の決済記録が表示されるように構成したものである。

#### 【0033】

具体的に説明すると、前記プリペイド式のクレジットカードは、クレジットカード会社と提携したカードとすることにより、既存のクレジットカードと同様に、店頭やインターネットや通信販売などの様々な商取引に使用できるように構成している。即ち、従来のクレジットカード会社の加盟店（商品・サービス提供業者）で、従来のクレジットカードと同じように商取引できるプリペイド式カードを発行する。

#### 【0034】

尚、このプリペイド式のクレジットカードは、これまでのクレジットカードと同様に、利用者がこのプリペイド式クレジットカードを利用して商取引をすると、その都度利用者が支払う利用額からクレジットカード会社が手数料を取り、この手数料が差し引かれた額が小売店や通販業者などに支払われるようとする。

#### 【0035】

また、更にこのプリペイド式のクレジットカードと通帳とを発行する業者は、需要者（プリペイド式のクレジットカード利用者）に対して手数料を求めるものと考えられる。

#### 【0036】

従って、プリペイド式のクレジットカードの前記最大利用限度額を、預金額と同等の額としたい場合には、少なくともカードと通帳とを発行する業者に支払う

手数料を預金通帳に上乗せして入金する必要があり、また、この手数料分を入金しない場合には、預金額からこの手数料を差し引いた額が最大利用限度額なるものと推測される。

## 【0037】

本実施例では、最大利用限度額を預金通帳の預金額の範囲内に設定したことにより、商取引の支払い金は預金通帳の預金によって保証されることになり、よってクレジットカード発行の際に行われるような入会審査などは不要で、預金がなされた預金通帳を持つ人であれば、誰にでもその預金額の範囲内で最大利用限度額を設定したプリペイド式のクレジットカードを発行できる構成としているものである。

## 【0038】

従って、これまでクレジットカードを所有できなかった人も、このプリペイド式のクレジットカードであれば容易に所有できるようにしている。よって、クレジットカードを所有できなくて、インターネットショッピングなどのどうしてもクレジットカードが必要な商取引を利用できなかった人も、このプリペイド式のクレジットカードを利用しての商取引が可能となる。

## 【0039】

また、このプリペイド式クレジットカードは、預金通帳の預金額がいくら高額であっても、最大利用限度額を50万円以下としている。

## 【0040】

このように最大利用限度額を50万円以下の少額とすることにより、プリペイド式のクレジットカードが盗難にあったり、コピーカードを作られたり、カード番号を盗まれても、被害額は最高でも50万円に抑えられることとなり、このプリペイド式クレジットカード利用のリスクは既存のクレジットカードに比べて非常に低くなる。また、このプリペイド式のクレジットカードが盗難にあったり落としてしまったりしたときなどには、その旨の届けを出すことでこのプリペイド式クレジットカードの利用が停止されるようなサービスを行うようにしても良い。

## 【0041】

また、このプリペイド式クレジットカードの最大利用限度額は、50万円以下の範囲内で任意の金額を選択できるように構成しても良いし、50万円以下の範囲内で最大利用限度額が、例えば、3万円、5万円、10万円、30万円、50万円などのように数種類設定されていてこの数種類の最大利用限度額の中から選択できるように構成しても良い。

【0042】

このように最大利用限度額を選択できるようにすると、個人個人に最適な利用限度額を設定することが可能となるので極めて実用的となる。

【0043】

また、発行するカードは、預金額以内に設定した最大利用限度額のものを一枚だけ発行しても良いし、最大利用限度額を複数等分にした設定額のもの、即ち最大利用限度額の合計が設定額となるものを複数枚発行しても良い。

【0044】

また、このプリペイド式のクレジットカード発行後は、預金通帳から通常通りお金を引き出しできるように構成しても良いし、通常の引き出しはできず、このプリペイド式のクレジットカードを利用して商取引することでしか引き出しがなされなくなるように構成しても良い。

【0045】

また、本実施例では、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすると、即時決済されて預金通帳にこの商取引の決済記録を表示可能となるように構成している。

【0046】

具体的には、本実施例では、金融機関と加盟店（商品・サービス提供業者）とに夫々情報処理装置（コンピュータ）を設け、プリペイド式のクレジットカードで商取引をすると、加盟店に設けられた情報処理装置（コンピュータ）からオンライン回線（ネットワーク）などを通じてカード発行の金融機関に設けられた情報処理装置に取引額の請求がなされ、この請求に応じて金融機関の情報処理装置がカード利用者の預金通帳口座から取引額を引き落として加盟店に支払うようにし、この商取引の決済記録が預金通帳に表示されると共に、カードにも記録され

るよう処理する構成とする。

【0047】

従って、このプリペイド式のクレジットカードでの商取引は、最大利用限度額が預金額以内に設定されているから、絶対に使いすぎて決済できなくなってしまうことがないし、クレジットカードと同様に預金通帳から利用分の金額が即時に自動引き落とし決済され、この預金通帳には商取引の決済記録が表示されることになる。

【0048】

また、このプリペイド式のクレジットカードは、預金することで前記預金通帳とセットで発行される構成としても良いし、預金通帳を提示することを条件にプリペイド式のクレジットカードを発行する構成としても良いが、いずれにしても預金通帳を取り扱うものであるため、銀行などの金融機関で取り扱うことにする。

【0049】

また、プリペイド式のクレジットカードと預金通帳とをセットで発行する構成とした場合には、例えば、プリペイド式のクレジットカードの取引用暗証番号を予め定めておいて、預金通帳は通帳番号のみで判別される構成とした方が、事務手続が省力化できると考えられる。

【0050】

また、このプリペイド式のクレジットカードは、商取引時に既存のクレジットカードやデビットカードと同様に、暗証番号や署名（サイン）によりカード所有者本人であるか否かの識別を行う構成としている。尚、テレホンカードやハイウェイカードなどのプリペイドカードのように、暗証番号による識別も署名による識別も不要とする構成でも良いが、本実施例のように識別を行う構成とした方が、落とした時や盗難にあった時に利用されにくく、被害にあいにくいので好ましい。

【0051】

また、本実施例では、預金通帳に預金がなくなても、この預金通帳に再び入金することでプリペイド式クレジットカードを継続使用することができるよう

構成している。

【0052】

また、この際、予め設定されているプリペイド式クレジットカードの設定限度額よりも、多く入金した場合には、プリペイド式クレジットカードの設定限度額を上昇させることができるように再度選択設定できるようにしても良い。

【0053】

この際、例えば、預金通帳に入金することで自動的に前記プリペイド式のクレジットカードの最大利用限度額が上昇するように構成しても良いし、入金することにより残金の増えた預金通帳を提示することで最大利用限度額が上昇した別のプリペイド式のクレジットカードが発行されるか、増えた預金分の別のプリペイド式クレジットカードが発行される構成としても良い。

【0054】

【発明の効果】

本発明は上述のように、預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行するから、商取引の支払い金が預金通帳の預金によって保証されることになり、これにより既存のクレジットカード発行の際に行われるような入会審査などは不要となって、預金がなされた預金通帳を持つ人であれば誰にでもその預金額の範囲内で最大利用限度額を設定したプリペイド式のクレジットカードを発行できることになる。

【0055】

従って、これまでクレジットカードを所有できなかった人も、このプリペイド式のクレジットカードであれば容易に所有できることになり、よって、クレジットカードを所有できなくて、インターネットショッピングなどのどうしてもクレジットカードが必要な商取引を利用できなかった人も、このプリペイド式のクレジットカードを利用しての商取引が可能となるので、一層カード利用による商取引の利用者層が広がることにもつながる極めて実用性に秀れた画期的なプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

【0056】

また、このプリペイド式のクレジットカードも、もちろん既存のクレジットカードと同様に盗難やコピーカードを作られる危険性やカード番号を盗まれる危険性はあるが、最大利用限度額が預金通帳の預金額以内に限られているので、利用され続けて大きな被害をこうむることにはならず、このプリペイド式クレジットカード利用のリスクは既存のクレジットカードに比べて非常に低いものとなり、しかも、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすると、最大利用限度額が預金額以内に設定されているから、絶対に使いすぎて決済できなくなってしまうことがないし、最大利用限度額を設定していることによってデビットカードのように最大利用限度額が変動してしまうことがなく、この設定金額を少額にとどめておくことで、使いすぎを未然に且つ確実に防止することができ、その上クレジットカードと同様に預金通帳から利用分の金額が自動引き落とし決済され、この預金通帳には商取引の決済記録が表示されるので、利用状況を見たいときにはすぐ確認することができるなど極めて実用性に秀れたプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

## 【0057】

また、請求項5記載の発明においては、プリペイド式のクレジットカード所有者の預金通帳からの自動引き落とし決済と、この預金通帳に商取引の決済記録を表示することとが情報処理装置により極めてスムーズに且つ確実に行われる秀れた構成のプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

## 【0058】

また、請求項6記載の発明においては、50万円以下の範囲内で個人個人に最適な最大利用限度額を選択して設定することができるし、この最大利用限度額が50万円までであるので、プリペイド式のクレジットカードが盗難にあったり、コピーカードを作られたり、カード番号を盗まれても、被害額は50万円以下に抑えられることとなり、一層このプリペイド式クレジットカード利用のリスクが小さくなる極めて実用性に秀れたプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

## 【0059】

また、請求項7記載の発明においては、プリペイド式のクレジットカードと預

金通帳とを、事前の審査などを要することなく簡易に且つ確実に発行できることになる極めて実用性に秀れたプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

【0060】

また、請求項8記載の発明においては、預金通帳に預金がなくなても再び入金することでプリペイド式のクレジットカードを継続使用することが可能となる、一層実用性に秀れたプリペイド式クレジットカードによる商決済システムとなる。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 誰にでも簡単に所有することができる上に、クレジットカードのように広く商取引に利用でき、しかも、カード犯罪による被害も小さくリスクが少ない商取引カードを提供できる画期的なプリペイド式クレジットカードによる商決済システムを提供すること。

【解決手段】 預金通帳を提供すると共に、この預金通帳の預金額以内に最大利用限度額を設定若しくは最大利用限度額の合計を預金額以内に設定した一枚若しくは複数枚のプリペイド式のクレジットカードを発行し、このプリペイド式のクレジットカードで商取引をすることでクレジットカード決済と同様に前記預金通帳から自動引き落とし決済して、この預金通帳に商取引の決済記録を表示する金融機関と、このプリペイド式のクレジットカードで商取引を行うことによりこのプリペイド式のクレジットカード所有者の前記預金通帳から引き落とし決済する商品・サービス提供業者とから成るプリペイド式クレジットカードによる商決済システム。

【選択図】 なし

出願人履歴情報

識別番号 [500237162]

1. 変更年月日 2000年 5月23日

[変更理由] 新規登録

住 所 新潟県西蒲原郡分水町大字国上4032番地  
氏 名 熊木 千春